

○復元工程



1 出土犬骨の3Dスキャン

- ・ステレオカメラという器材を用いて出土部位を回転させながら3D計測を行います。
- ・計測データをつなぎ合わせて欠落箇所のない3Dデータを作成します。



2 出力データの編集

(7月9日青谷高生が実施)

- ・1でスキャンした各部位のデータを、編集ソフト上で部位の順序や骨格の向きにしたがって並べ出力用データを作成します。
- ・可能な部分はコピーや反転によって部位の欠落を補います。



3 3Dプリンターで出力

- ・2で作成した出力データを3Dプリンターで出力します。
- ・径0.2mm幅で吐出される素材に積み上げによって、各部位の精巧なレプリカを作製します。

4 3D出力品の仕上作業 (今回実施)



- ・関節部や筋肉の始点となる箇所を調べ(左)、その形状を損ねないように注意しながら3D出力品表面のバリや積層痕を削ってならします(右)。

<参考>今後の作業工程 (纏向遺跡出土犬の復元工程を参照)



全身骨格の組上



肉付け



整形、彩色

写真出典：桜井市纏向学研究センター編 2026『纏向遺跡出土犬骨の研究』